



有限会社エコ・ライス新潟  
新潟県長岡市藤川新田町字前島970-100  
TEL:0258-66-0070 FAX:0258-66-0447

# クイーン倶楽部だより 7月号



食の文化祭 全国から31の大学が参加-----

【大学は美味しい!!】フェアに参加してきました!

6月2日～8日まで新潟高島屋にて、全国の大学が自分たちの開発した商品を販売する「大学は美味しい!!」が開催され、白藤プロジェクトも初参加、白藤を使ったちまき、笹団子、ビールなどを販売しました。

予想を超える来場者の中で、お揃いのTシャツ・もんぺ姿の学生たちは自分たちの体験をアピール、最高の発表の場になりました。蓋を開けてみれば出店大学中、売上一位を記録し大成功のうちに終了することができました。

ご来場いただいた皆様に心より感謝申し上げます。



せんたくも登場!

新潟女子大学の応援に駆けつける!



大盛況!!

お客様に白藤を丁寧に説明、対面販売の難しさを痛感!



フェア中、テレビ・新聞・ラジオなど多数の取材を受けました。(2年生の高橋さんはラジオ番組に生出演!)

マスコミも取材に!

## Dr中村のお米の話



中村 信也(なかもらのぶや)

医学博士、東京理科大学家政学部栄養学科教授として勤務をとり、「食と健康」の医療薬師研究の第一人者として活躍中。

私は田んぼをもっていないので、残念ながら理論の世界です。実践された方がいましたらお知らせください。

「ある面積に生存できる生物の重量は一定」という法則です。ある面積に住んでいる動物または植物の重量を足すと、種は変わらうと一定ということ。自然界をみますと、微生物はものすごく多く、小動物もそれに比べて多く住んでいますが、中・大型動物は少ないというピラミッド構造になっています。

人間は大型動物です。今、地球では人類が猛烈に増加し、野生動物は猛烈に減少しています。野生動物の絶滅というのが大きな環境問題となっています。

ある特定の生物だけが増えると、自然はその種を減らそうとします。つまり、「感染症の発生」です。人類を襲う新しい感染症はこれからも続出します。口蹄疫の発生は過密状態で飼育されている牛を減らそうという天の力で、鶏も同様な理由でインフルエンザが発生します。魚の養殖でも抗生物質をふりかけないと絶滅します。

ここから、やごとお米の話になります。稲作も例外ではありません。稲作は田んぼに稲以外の植物は許さないと方式ですから、当然に種を減らそうという天の力が働きます。人類はこれを農薬というもので克服してきました。稲が豊作というのは農薬の力であって、毎年豊作というのは最近のことなのです。

しかし、農薬で豊作にするのはおかしいと思っている方々が増えています。健全な考え方は、健全には健全な方法で答えるしかありません。ここで読者に健全減農薬方式をお教えいたします。

減農薬にするにはまず稲の過密栽培をなくすることです。稲え付けの稲の量を減らすことです。苗を十行くらい植えては、三行くらいのスペースで風の通り道を作ります。稲にこぼれついたりした環境を作れば、病気も発生しにくくなります。米も多くとれます(とれるはずは)。

## 第43回 生物一定量の法則